

県立水戸第二高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | ○ 豊かな人間性、積極的な実践力、合理的で公正な判断のできる叡智、たくましく生きるための健康や体力を備え、平和な国家・社会の進展に貢献できる品位と教養ある人材の育成を目指す学校 1 生徒ひとりひとりの学力を伸ばし、進路希望実現を図る学校 2 特別活動や各種部活動が盛んな活力ある学校 3 生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校 4 社会規範を身に付け、広く社会に貢献できる良識ある指導者を育成する学校 | | | | | | | |
|---|---|---|--|---|---|---|---|---|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 | | | | | |
| <p>1 家庭での学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。自学自習の定着を図るために、調査前の自学時間の設定や集中学習会を実施した。課題の提出等、きめ細かな指導や教科指導を行い、自学する環境を整えることが必要である。『進路ノート』等を用いて、計画性を持った学習活動に留意しながら主体的に取り組む姿勢を身につけさせることが必要である。</p> <p>2 平成27年度卒業生は、国公立大学の合格者が141名となり、近年にない数を出すことができた。東北大学、北海道大学、筑波大学や早稲田大学、上智大学などの難関大学へも数多く合格することができた。センター試験や二次試験等に対応できる応用力・記述力をさらに養う取り組みが必要である。受験環境の変化を的確に捉え、本校生徒に最もふさわしい教育課程となるよう絶えず見直す必要がある。</p> <p>3 スマホ・ケータイ使用時間は、全国平均（9%）より低い、本校性の4～5%の生徒がスマホに依存している傾向がある。スマホの使用による睡眠時間及び学習時間の減少のため、体調不良者や、学力の低下が起きないよう対策が必要である。</p> <p>4 生徒の約80%が部活動に所属し、平成27年度は、県高等学校総合体育大会女子の部で総合優勝した。部活動の充実とともに、学習時間を確保させる必要性がある。</p> | 1 生徒の進路希望の実現を図る教科指導の充実とキャリア教育の構築 | ① 校内及び校外研修を充実させ、教科指導力の向上を図る。 ② 進路講演会、キャリアガイダンス、大学模擬授業などの進路行事を通して、学習意欲や進路に対する意識を高める。 ③ 個別面談を通して生徒理解を深めるとともに、早期における志望大学の決定を促す。 ④ 国公立大学現役合格120名以上、難関大学への合格者数増加を達成するため、個に応じたきめ細かな学習指導や進路指導を行う。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td rowspan="4">B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table> | B | B | B | B | B |
| | B | B | | | | | | |
| | B | | | | | | | |
| | B | | | | | | | |
| | B | | | | | | | |
| | 2 自主的・能動的な学習習慣の確立 | ⑤ シラバスを活用した授業中心の学習形態と自学自習の姿勢を指導する。 ⑥ 「進路ノート」を活用し、計画的な学習の在り方や学習時間の確保を指導する。 ⑦ 学習室や図書室の利用を促進する。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td rowspan="3">B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table> | B | B | B | B | |
| | B | B | | | | | | |
| | B | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| 3 理数教育の推進～Ⅲ期目指定校としてのSSH事業の充実 | ⑧ SSH講演会、自然科学体験学習、学校設定科目を通して科学的思考力を育成する。 ⑨ 各種発表会や海外セミナーを通して、プレゼンテーション力や英語活用力の向上を図る。 ⑩ 地域の科学教育の拠点校としての役割を担う。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr><td>A</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table> | B | A | A | A | | |
| B | A | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |
| 4 国際理解教育の推進 | ⑪ 国際理解講演会等を通して、国際情勢や世界で働く意義の理解を図る。 ⑫ 日本の文化や歴史への理解や体験を通して、多様な文化を受容できる力を育成する。 ⑬ 積極的に自分の意見を発表できるプレゼンテーション力や英語力を育成する。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>A</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr><td>A</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table> | A | A | A | B | | |
| A | A | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| 5 特別活動や部活動への積極的な参加 | ⑭ 生徒会活動や部活動などへの積極的な参加を促し、活力ある学校づくりを推進する。 ⑮ 各種学校行事、委員会活動を通して、豊かな人間性やリーダーシップを培う。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table> | B | B | B | | | |
| B | B | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| 6 規範意識の高揚と自律的で責任ある生活習慣の確立 | ⑯ 服装指導や生活指導を通して、水戸二高生として自覚と責任をもった行動ができる生徒を育成する。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td>B</td></tr> </table> | B | B | | | | |
| B | B | | | | | | | |
| 7 施設・設備等の教育環境の充実 | ⑰ 校舎内外の清掃と教室の整理・整頓の徹底を図り、快適な学習環境を整える。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td>B</td></tr> </table> | B | B | | | | |
| B | B | | | | | | | |
| 8 積極的な広報活動の実施 | ⑱ 本校の教育目標や教育活動について、保護者および地域の方々や中学校への積極的な広報に努める。 ⑲ 常に最新の情報を掲載するなどHPの充実と、積極的な情報発信に努める。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table> | B | B | A | | | |
| B | B | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|--------|---|--|--|---|---|
| 教科指導 | 各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(①⑤) | ・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。 | B | ・タブレットを利用した授業の研修を実施し授業改善の一助となったが、アクティブ・ラーニング等により生徒の主體的・協働的な学習をさらに進める必要がある。 | |
| | | ・常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。 | A | | |
| | | ・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。 | B | | |
| 教 科 | 国 語 | 1 基礎学力の定着と応用力の伸長(④) | ・到達目標の達成度を各単元毎に確認し、事後の指導の改善を図る。 定期的な小テストの実施(古典基礎の定着と応用発展・現代文の読解力・語彙力養成) | A | ・読書活動の活性化を図る指導の工夫をさらに進めていく。 |
| | | 2 表現への興味・関心及び表現力の向上(⑦⑬) | ・読書指導の推進 図書部と連携して、読書感想文コンクールへの参加を促す。 図書部・学年と連携しての小論文講演会の実施。 | A | |
| | | 3 自学自習力の養成(⑤) | ・適切な自学用の教材の利用 現代文・古文・漢文の副教材やワークブックを使った、家庭学習の習慣化の指導。 教科書で学習した作者の他作品の紹介をし、読書活動につなげる。 | B | |
| | 地 歴 ・ 公 民 | 1 授業内容の工夫・充実(①④⑤) | ・アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒が意欲的に参加できる授業の工夫を図る。 ・センター試験・私大記述に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。 ・学習内容の把握・定着の充実を図るため視聴覚教材などの積極的活用をめざす。 ・指導に生かす評価の工夫改善に努める。 | A | ・アクティブ・ラーニングを取り入れたら、課題解決能力を養成する授業を実施したりすることで、生徒の五感に訴えるような授業をする。 ・生徒の実態や大学受験への対応を踏まえて、考查問題の工夫改善に努めたり、教育課程の検討を継続したりする。 |
| | | 2 カリキュラムの検討継続(④⑤) | ・3期目のSSH指定にともない、文系科目としてきめ細かで適切な指導ができるよう、検討を継続する。 | B | |
| | | 3 視聴覚機材の有効利用(①⑦) | ・地歴公民の各分野における視聴覚教材を、積極的に活用し、生徒の興味・関心を高める。 ・それぞれの授業における、定期的な活用方法を検討する。 | A | |
| | 数 学 | 1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(⑤) | ・(1年)教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに、自主学習ノートを提出させ、家庭における学習習慣の確立を図る。また、確認テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・(2年)問題集を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ+Bを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また、定期考査等を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・(3年)問題演習の際、各項目の基本事項を確認し、テストを行うなどして基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ⅠAⅡBの既習事項の問題集を活用し、基礎力の定着を図る。 | A | ・基礎的計算力や中学数学の基本事項が十分に定着していない生徒に対する指導方法の研究。 ・パターンの暗記ではなく、学習内容の本質を理解し数学的に考察する態度を育成する指導方法のさらなる研究。 ・理工系の興味や関心を高める授業内容の検討。 |
| | | 2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(④⑤⑥) | ・(1年)確認テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図る。また、提出させた自主学習ノートやプリント等を活用し、個別に指導助言を行う。 ・(2年)ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。また、各習熟度別に希望者課外を実施し、より高い学力への到達を目指す。 ・(3年)ノートやプリント等の提出を通して、個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また、習熟度を考慮した平常課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。 | A | |
| | | 3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(④) | ・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。 | B | |
| 理 科 | 1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探求する能力と態度を養成する。(⑤⑧) | ・自然の原理・法則の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力を身に付けるために、創意工夫して実験・実習を行う。 ・身近な科学的現象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。 | B | ・実験、実習の機会、内容の一層の充実を図る。 ・教科・教員間の連携をさらに広く緊密にする。 ・サイエンステクノロジー教室やコンテスト等の新規事業の内容の一層の充実を図る。 | |
| | 2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(⑧⑨⑩) | ・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。 ・研究手法や科学的思考力など必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、活動を円滑に進める。 ・小中学校支援を充実させるとともに、新規事業を計画的に取り組む。 | A | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|---|------------------------------|---|--|---|--|
| 教 育 科 | 保 健 | 1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤) | ・評価テスト問題の内容を検討し、授業改善を含め、身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。 | B | ・視聴覚教材を利用して、さらにより良い行動が選択できるようにする。生きる力を身につけさせる。 |
| | 2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(①) | ・グループでの課題学習をはじめ、実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用により、より良い行動の選択ができるように授業を実践する。 | A | | |
| | 体 育 | 1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤) | ・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、授業改善を含め、学年の進行に合わせた、身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。 | B | ・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、学年進行に合わせた身に付けさせたい運動能力についての評価の充実。 ・生涯スポーツへとつながるようにする。 |
| | | 2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(⑮) | ・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。 | B | |
| | | 3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(⑭) | ・種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題解決学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。 | B | |
| | 芸 術 | 1 個性豊かな人間性と情操の育成(①④) | ・近隣の美術館やホール等と連携して鑑賞指導の質を向上させ、自由課題の設定によって総合的に創造力や表現力を涵養する。 | B | ・芸術三科目間のさらなる相互理解と協力の推進に努める。 ・言語活動を通して、芸術に対する捉え方や考え方を深化させると共に、表現に対し、理論的な概念を構築することができる能力の育成に努める。 |
| | | 2 基礎表現力の育成と、教育環境の整備に努める。(①⑩⑰) | ・芸術三科目間の協力を推進し、生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力をつけ、また震災以前の教育環境の状態に戻せるようその整備に努める。 | B | |
| | | 3 個人の能力・進路に応じた指導(③④) | ・芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、芸術系大学進学志望者の進路を実現させるための教育課程や年間指導計画を立案し、個の能力・適性に応じたきめ細やかな指導を行う。 | B | |
| | 外 国 語 | 1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(⑤⑨⑬) | ・英語の基礎学力の定着と向上を図る。 | B | ・基礎学力の定着を徹底する。 ・英語を用いて自己表現をしたり、論理性のある意見を述べたりしようとする態度や能力を引き続き育成する。 ・教員間で情報を共有し、生徒の能力、進路に応じた指導を継続して行う。 |
| | | | ・A L TとのT Tやディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。 | B | |
| | | | ・個人の能力、希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。 | A | |
| | | | ・センター試験のリスニングへの対応の充実と英作文指導を継続的に行う。 | A | |
| 家 庭 | 1 社会の変化に対応した指導の充実(①) | ・最新の情報を精選して教材として使用する。 | B | ・1時間ごとの学習内容の理解を深めるためのプリント学習を継続する。 ・ホームプロジェクトの内容をより充実させるための事前指導を徹底させる。 ・学校家庭クラブ県連会長校として、県連の行事の円滑な実施のために準備等を行い、また、水戸地区の加盟校のまとめ役としてふさわしい活動ができるようにする。 | |
| | | ・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。 | B | | |
| | 2 実験・実習、体験学習の工夫(①⑩⑰) | ・限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。 | C | | |
| | | ・被服製作作品、課題プリント等を期限までに提出させる。 | B | | |
| | | ・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。 | A | | |
| | 3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(①⑱) | ・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。 | B | | |
| ・家庭クラブ県連次期会長校として、県内外の学校家庭クラブ関係の行事に積極的に参加する。 | | A | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|-------|---|--|----|---|
| 教務部 | 1 SSHの研究題目を踏まえた教育課程の編成(④⑤⑧) | <ul style="list-style-type: none"> SSHの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。 教育課程の自己点検、自己評価を通して、水戸二高の将来像を見据えた、よりよい教育課程の研究に努める。 教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。 「総合的な学習の時間」の円滑な運営と効果的な内容の選択をする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の自己点検、自己評価をとおして、さらなる教育課程の研究に努める 学校行事等の連絡調整を行い、授業時間の確保に努める。 学習指導のさらなる質的向上をめざし公開授業参観などの校内研修体制を充実させる。 成績処理、指導要録等は、個人情報の保護を徹底し、厳正に管理する。 校務が円滑に行われるよう、校内コンピュータ、ネットワークを把握し、適切に維持管理する。 |
| | 2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保(④⑭⑮) | <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 学校行事等の精選を行い、授業時間を確保する。 週ごとに授業交換を行い、自習時間のない時間割を編成する。 | A | |
| | 3 校内研修の企画・運営(①) | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の研修を企画する。 授業の質的向上のための研修を推進する。 人権教育の研修を企画する。 | B | |
| | 4 学校評価の研究(⑱) | <ul style="list-style-type: none"> 保護者・生徒への授業アンケートを実施する。 | A | |
| | 5 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理(⑰) | <ul style="list-style-type: none"> 成績や指導要録の電子データを確実に保管し、書き換え等による誤りが起こらないようなシステムを研究し、作成していく。 ファイルサーバーのセキュリティ、成績データ管理、成績処理ソフトの研究をする。 絶えず迅速で正確な成績処理を実施する。 | A | |
| | 6 ハード・ネットワーク、視聴覚機器の管理(⑰) | <ul style="list-style-type: none"> 各教室、コンピュータ教室、職員室等のコンピュータの維持管理に努める。 消耗品の在庫の管理に努める。 ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。 視聴覚設備、放送室・体育館の放送設備の管理、運営に努める。 | A | |
| | 7 外部への積極的な情報提供(⑱⑲) | <ul style="list-style-type: none"> 学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。 ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。 | A | |
| 生徒指導部 | 1 基本的生活習慣の確立(⑯) | <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整え規則正しい生活ができるよう、毎朝のあいさつ運動や登校指導を通して「声かけ」を行う。 公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。 スマホ家庭のルールづくり運動を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> スマホ使用のため勉強時間と睡眠時間を減らしているというアンケート結果をふまえて、どう対処していくのか検討する。 自転車安全点検が1回しかできなかったため、年2回は実施したい。 被害調査を2回しかできなかったため、年3回は実施したい。 |
| | 2 交通安全指導の推進(⑯) | <ul style="list-style-type: none"> 茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車の安全運転指導や交通講話を実施する。 交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。 自転車安全点検を行う。 | B | |
| | 3 いじめ防止・早期発見(⑯) | <ul style="list-style-type: none"> 被害調査を行う。 いじめ予防授業を行う。 | B | |
| 特別活動部 | 1 自主的活動の育成(⑭⑮) | <ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中で自己を見つめる姿勢が身に付くよう働きかけていく。 生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組み、リーダーを育成する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に、生徒自らが二高の良さを伸ばし、改善すべきことが実行できるよう援助する。そのため、研修会等を通じたリーダー育成に、一層力を入れていく必要がある。 |
| | 2 奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚(⑮) | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア精神を養うため、募金活動等を積極的に行う。 環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。 | B | |
| 進路指導部 | 1 進路に対する意欲を高め、学習時間の確保と自学自習力の育成指導 自学自習の週平均時間数 [3年] 30時間以上 [1、2年] 20時間以上 (②⑤⑥⑦) | <ul style="list-style-type: none"> 進路講演会をはじめ、キャリアガイダンス・大学企業見学・大学模擬授業など、昨年度導入した行事の継続と内容の深化を図る。 全学講座(年間15日)や課外の計画・実施。特に、長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて、柔軟且つ弾力的に運用する。 学年別に作成した『進路ノート』を効果的に活用し、自学自習の習慣を定着させる。また、幅の広い情報提供を行い、生徒の進路希望の視野を広げる。 自学自習の習慣化を図るために、集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては、早めの受験体制への切り替えを図っていく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 全学年に関して、自学自習の習慣化が求められる。自らの生活を客観的に捕らえさせるために、『進路ノート』の利用や生徒との個別面談を充実させたい。 進路関係の行事を有効に利用しながら、1年生での早期の進路意識の向上に留意してしたい。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|-------|--|---|----|--|
| 進路指導部 | 2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(①③⑤) 模擬試験での成績 [3年]河合塾マーク模試 偏差値 60以上20名 50以上120名 [2年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値55以上 [1年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値57以上 | <ul style="list-style-type: none"> 授業中心の学習習慣の定着を確実なものにする。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。 生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。また、学年との協力を密にするために学年会などに同席する機会を増やす。 進路資料・進路のしおり・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進。 卒業生から聞く学習法(OGインパルス)を2年生対象に開催するが、可能な限り1年生にも機会を拡大する。 保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体制を築く。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成させるためには、英語、数学、国語の3教科を中心としながら、バランスのよい試験結果となることが重要である。そのためには、苦手教科を中心とする自学自習を確立する必要がある。よって生徒一人一人の特性を正確に把握しながら指導しなければならない。 次年度も保護者会等を通じて、保護者に対して進路情報を提供すると同時に、学校への協力をお願いしていきたい。 5教科の実力を養成するために、3年生の夏休み以降は理科や地歴公民に集中できるよう3年間を見通した教科指導を、改めて確認する必要がある。 |
| | 3 生徒の第1志望実現のための援助促進 難関私立大学を含む国公立大120名以上合格の達成(③④) | <ul style="list-style-type: none"> 校外模擬試験の分析会や教員対象の進路研修会を実施する。 生徒の個に応じて、推薦入試活用の助言を行う。 大学入試センター試験出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施。 各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。 平成31年度導入の新テストや大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。 | B | |
| 図書部 | 1 「読書センター」としての機能の充実を図る。(②) | <ul style="list-style-type: none"> 前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHR読書会を開く。 LHRを利用した読書活動を、年1回実施する。 図書等の資料の充実を努める。 図書委員会読書会を年2回程度企画、実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 図書の利用冊数増加およびデータベースの利用を促進する。 道徳の継続的展開に向けた取り組みをさらに進める。 |
| | 2 「学習・情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(②⑬) | <ul style="list-style-type: none"> 3号館1階学習室の学習情報センターとしての活用促進を図る。 図書館を利用し、「道徳プログラム」を行う。 「道徳プログラム」のマニュアル化に努める。 図書等の資料の充実を努める。 使用全教科書を閲覧できるようにしておく。 職員からの図書購入希望に随時対応する。 図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。 LHRのための視聴覚資料の充実を図る。 図書館を利用する授業に対し、資料利用のオリエンテーションを行う。 新任者、新入生に対し、図書館利用のオリエンテーションを行う。 小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。 | A | |
| | 3 生徒図書委員会の充実を図る。(⑭) | <ul style="list-style-type: none"> 毎週定例の図書委員会を開く。 生徒図書委員の校外研修を行う。 中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。 図書委員による特集を組んだ本の展示や読書会を定期的に行う。 生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。 「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。 | A | |
| 保健厚生部 | 1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備(⑯⑰) | <ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。 教室内の整理・整頓と清掃の徹底をはかる。 防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 廊下の清掃まで徹底する。 換気やエアコン使用方法の共通理解をはかり、教室の環境を整える。 感染症防止のためのさらなる啓蒙に努める。 奨学金制度が変更になる見込みなので、適切に情報伝達や書類作成が行えるように心掛ける。 |
| | 2 健康の保持・増進 | <ul style="list-style-type: none"> 心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。 心身の相談活動を推進する。 | A | |
| | 3 奨学生関連事務の的確な運営 | <ul style="list-style-type: none"> 奨学生募集の情報を確実に伝達する。 提出書類作成手続きの指導を適切に行う。 | A | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|---------|--|--|----|--|
| 渉外部 | 1 P T A活動のより一層の活性化を図る。(18)(19) | ・ P T A諸行事へ積極的に参加する。 | A | B ・ 専門委員会の行事や活動日に参加できない委員が増えてきている。次年度に向けて活動方法や活動内容そのものの見直しが必要になってきている。 ・ 役員及び専門委員の欠員を年度内に補充する。 |
| | 2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。(18) | ・ P T A役員間の信頼と連帯強化を図る。 ・ 学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。 ・ P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に生かす。 | B | |
| | 3 同窓会「秀芳会」との連携 | ・ 更なる連携を推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。 | B | |
| S S H部 | 1 科学教育プログラム 自然科学の世界への導入としても位置づけ、発想力や問題解決力等の基盤となる興味・関心、知識・理解、科学的思考力などを育成 (2)(8)(18)(19) | ・ 関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、科学的思考力、表現力等の向上に努める。 ・ S S H講演会を開催し、科学的教養及び学習生活に対する意欲の向上を図る。 ・ 自然科学への導入として、1年生希望者を対象に「自然科学体験学習」を実施し、自然及び環境に対する知識と理解を深める。併せて発表会を実施することによりプレゼンテーション能力を高める。 ・ 各種講演会や体験活動の広報を行い、科学的素養の向上に努める。 ・ 事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 | B | A ・ 行事ごとに作成したマニュアルをさらに改良し、スムーズな運営を行えるよう努力する。 ・ 科学教育プログラムについて、行事間の関連性をさらに明確にしながら、充実させていく。 ・ 卒業生による課題研究の指導など、SSHサイクルをさらに活用する。 |
| | 2 科学研究プログラム 科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力等を育成 (4)(9)(11)(12)(13)(18)(19) | ・ 関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、知識・理解及び科学的思考力等の向上に努める。 ・ 「S S 課題研究」「科学系部活動」を行い、研究に対する主体性や科学的実践力、情報収集力及びプレゼンテーション能力の向上を図る。 ・ 「サイエンスイングリッシュ」・「海外セミナー」を行い、実践的英語力、国際性を育成する。特に「海外セミナー」では、アメリカで活躍する研究者の講演、現地高校生との交流及び相互プレゼンテーション等により、女性科学者育成の基盤づくり等を行う。 ・ 事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 | A | |
| | 3 水戸二高SSHサイクル 研究者・技術者としての卒業生の活用。小・中学校に対する科学への夢を育むための教育支援」の研究と実践 (10)(18)(19) | ・ 「S S 課題研究」や「科学系部活動」等で、卒業生の協力。助言をもらう。 ・ 小・中学校、茨城大学及び水戸市次世代エキスパート育成事業において、本校生がインタープリターとして小・中学生に体験実験の指導を行い、科学に興味関心を持つ子供たちの裾野を広げる。 ・ 本校S S H事業に関する広報活動を進める。 | A | |
| 国際理解教育部 | 1 異文化理解教育の推進 (11)(12) | ・ 国内外で国際交流、協力活動をしている人たちの講演会を実施する。 ・ 国際理解の文化活動への参加を促す。 | A | B ・ 英語を使い、より実践的なプレゼンテーションの機会を設け、国際理解教育推進のための発信・行動をすすめていく。 |
| | 2 多文化共生社会の認識 (11) | ・ 多様な文化や価値観を持つ人々との交流会への参加を促す。 | B | |
| | 3 グローバルリーダーの育成 (12) | ・ グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施する。 ・ 海外進学及び留学への支援を積極的に行う。 | B | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|--------------------------------|--|----|---|
| 第1学年 | 1 高校生としての生活習慣の確立(③⑤⑥⑭⑮⑯⑰) | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路ノート」等の活用や、個人面談を通して高校生としての自律的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。 ・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。 ・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、落ち着いた学習環境を作る。 ・特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・さらに自己管理が出来るように「手帳」などを利用して、生徒の高校生活を支援する。 ・学習時間が確保できるように、また自立的な生活が送れるように支援を継続する。 ・進路目標にあった適切な大学、学部、学科の選択が出来るように支援を継続する。 ・日本文化に対する理解を深められるように支援する。 ・特別活動への参加を継続的に支援し、人間的な成長を促す。 ・落ち着いた学習環境を作る。 |
| | 2 学習習慣の確立と学力向上(②⑤⑦⑨) | <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を通して学習上の悩みに対応し、高校で学ぶことの意義を理解し、意欲を持って学習に取り組めるよう支援する。 ・予習→授業→復習の学習サイクルを確立できるよう指導し、授業内容の定着を図る。 ・道徳の調べ学習を通して、先哲の生き方から自分の人生や生き方を見つめ、かつ資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。 | B | |
| | 3 進路意識の涵養(②) | <ul style="list-style-type: none"> ・LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して進路意識を高め、適切な文理選択ができるようにする。 | B | |
| | 4 国際理解教育の推進(⑪) | <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解のための講演会や海外研修を通して異文化を理解することで、多様性を受容し、グローバル化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。 | B | |
| 第2学年 | 1 進路目標の明確化(②③⑧⑪) | <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会・大学模擬授業等の行事を、より効果的なものにするよう検討・実施する。 ・進路指導部と連携し、的確な進路情報を提供するとともに、個人面談を通して、生徒個人の希望・適性に照らして適切な進路目標を設定できるよう、指導する。 ・SSH講演会や国際理解講演会を通して、進路意識の向上を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導にさらに努め、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。 |
| | 2 学習習慣の確立と学力向上(⑤⑥⑦) | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路ノート」を活用し、授業の予習復習を軸とした学習計画をたて、主体的に学習に取り組む、確かな学力を身につけることができるよう支援する。 ・課外を適切に設定し、個に応じた学習指導をめざす。 | C | |
| | 3 LHR・総合的な学習の時間・特別活動等の活用(⑫⑭⑮⑯) | <ul style="list-style-type: none"> ・白百合セミナーを通して、多様な文化を受容できる力を育成する。 ・道徳プラスを通して、規範意識を高め、協働する姿勢を育む。 ・特別活動に積極的に取り組み、活力ある学校づくりの中心となって活躍できるよう、支援する。 ・調査や発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。 | A | |
| 第3学年 | 1 進路目標の明確化と進路希望の実現(①②③④) | <ul style="list-style-type: none"> ・面談や進路講演会等を通して目標の確認・修正を行う。 ・模擬試験の結果を分析し、進路選択の指導・助言を積極的に行う。 ・進路指導部と連携し、的確な入試情報を提供し、意識の高揚と意欲の喚起を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の習慣化 ・進路ノートの活用 ・学年で統一した「進路HR」の実施 ・3年間を見通した教科指導 ・推薦入試の指導期間が短いので、仮評定で決定し、9月から指導に入りたい。 ・3年の模試取りまとめを、担任だけでなく副担任にも分担してもらえればありがたい。(特に10月は担任は忙しい。) |
| | 2 自学自習力の育成と学力向上(⑤⑥⑦) | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路ノート」を活用し、自分に必要な学習に計画的に取り組むよう支援する。 ・学習室を積極的に利用させ、学習時間の確保を図る。 | B | |
| | 3 規範意識の確立と品位の向上(⑯) | <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守や規則の遵守、身のまわりの整理整頓や貴重品の管理等、社会生活のモラルや危機管理意識を認識させる。 ・服装指導・学年集会・LHR等を通して、きめ細かな指導を継続的に行う。 | B | |
| | 4 特別活動等の充実(⑭⑮) | <ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚を持たせ、高校生活の集大成として諸活動へ意欲的に参加できるよう環境作りをする。 ・みやび祭やクラスマッチの実行にあたり、リーダーシップを発揮し、中心となって活躍できるように支援する。 | A | |

※ 具体的目標の後のかっこ内の数字は、1ページの学校の重点目標①～⑱との関連を示す。

※ 判定基準：A…非常に良くできた B…良くできた C…普通 D…やや不十分 E…不十分